

～新任部長ご挨拶～

感謝の気持ちを大切に

—共に学び、共に成長できる体制を目指して—



看護部長 三笠 照美

この度、4月1日付で看護部長を拝命いたしました。病院、看護部の歴史をつくり上げてきた先輩方に感謝すると共に、今後の看護部運営に注力してまいります。

看護部では新年度、看護職員40名を迎え、総勢347名でのスタートとなりました。医療の高度化・複雑化などにより、看護師が果たすべき役割は著しく拡大し、社会のニーズも多様化する中、質の高い看護師の育成が求められています。

当看護部では、平成28年度より「新人看護職員研修」を従来の1年計画から2年計画に修正し取り組みを開始しました。新人看護師の早期離職防止や医療安全上のリスクの低減に繋がられるように、共に学び、共に成

長できる教育のあり方を考え、実践していきたいと考えております。

6月からは重症患者を集約するHCU（ハイケアユニット）が開設予定で、更なる機能分化を目指しております。現在、高度急性期に対応できるよう新体制での運用に向けて準備を進めております。

11月には、地域枠や病児保育を取り入れた企業主導型（院内）保育所が開設（拡充）されます。WLB（ワーク・ライフ・バランス）を推進しながら、働き続けられる環境を整備してまいります。

医療・介護・住まい・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現においては、病院完結型医療から地域完結型医療へ

の転換が必要とされています。当院でも救急・急性期医療から訪問看護まであらゆる健康段階において、タイムリーで的確な医療・看護の提供と共に、看護師には生活の質の視点を持って患者さんを支える役割が期待されています。

これからも看護職の専門能力と看護実践能力を積み上げ、倫理的規範をもって人間性を磨くことで、看護の質の向上に努めてまいります。看護する喜びを感じ、専門職としての誇りを持ち、地域の患者さんのもとより、職員からも「信頼され選ばれる病院」を目指してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

薬剤部長就任にあたって

—病院薬剤部の理想の姿を求めて—



薬剤部長 大塚 尚

平成29年4月1日付にて薬剤部長を拝命いたしました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

私は平成10年4月より当院に入局し（当時は「薬局」でした）、現在まで薬剤部業務に携わってまいりました。出身は西予市で、名城大学大学院の修士課程を修了した後、当院に入局、在職中に福岡大学にて博士号を取得いたしました。専門は腎臓、TDM（therapeutic drug monitoring）、感染制御です。

座右の銘は「歩みて天に達せずとも請い願わくは天を目指さん」。地域医療に貢献できる中核病院である、松山市民病院で仕事を続けられることを大変誇りに思っております。

ここ数年で、当院は「地域住民のために存在する」との理念のもと、救急医療、地域連携、病児保育施設の新設等、業務の充実が図られてきています。それに伴い薬剤師への要望も高度なものとなってきております。

外来患者さんに寄り添った院内調剤をはじめ、無菌調製業務や病棟薬剤業務、TDM業務など、薬剤師が関与する業務は多岐にわたっており、関係各部署の支援と薬剤部員の努力の下に業務拡大を行ってまいりました。

また、薬物治療の質向上、安全確保、専門薬剤師の育成、他の医療スタッフとの業務連携などを基本方針としております。今後もこの方針を継続しながら、より一層患者さんにとってのメ

リットになるよう進めてまいります。

薬剤部としての日常業務に加え、学術、研究においても日々研鑽を重ね、薬剤師的観点から、より専門性の高い医療や、病院運営にも今まで以上に貢献できるようにと考えております。

医療情勢は今後さらに厳しくなっていくと予想されます。柔軟に対応していくには、各診療科や各部署、他病院の皆様方との連携がより一層大切になってくることと思います。患者さんのために、初心を忘れず、向上心を持ち続け、天（薬剤師としての理想）に一歩でも近づけるよう薬剤部一同歩んでまいります。今後ともご指導、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。